

広島の平和運動を 大分市へ活かすには

大分県本部／大分市職員労働組合・自治研青年部部会 有田 圭吾

目次

- 1.研究の背景
- 2.調査方法
- 3.広島県の歴史
- 4.広島県の平和運動
- 5.大分市の現状
- 6.広島県から学ぶ新しい平和学習の方法
- まとめ
- 沖縄の平和行進への参加報告

1. 研究の背景

- ・ 青年部、自治研部として反戦・平和について研究することを考えた。
- ・ 昨年、青年部では長崎への原爆投下をはじめとした戦争の歴史を学んだ。
- ・ 私自身、大学、大学院の6年間を広島県で過ごした。



- ・ 今年は、広島の平和運動を調査・研究することで、大分市に活かせるものがないかを考えた。

2.調査方法

- ・ 学生時代の同級生に広島市役所、広島県庁に就職した友人がいたため、個人的に連絡をとり、行政が主体となっていて行われている平和運動について調査した。
- ・ インターネットで補足情報を調べ、具体的な平和への効果を考えた。



- ・ 大分市で活かせることがないか考え、今後の平和学習の方法などを検討した。

3. 広島県の歴史

- ・ 1945年8月6日、広島県広島市に原子爆弾「リトルボーイ」が投下された。
- ・ 約35万人の人口のうち、約14万人が死亡した。
- ・ 広島大学の前身となる白鳥学校をはじめとした諸学校の中には、爆風によって破壊されたりしたものもあった。



リトルボーイ 出典: http://hpmuseum.jp/modules/exhibition/index.php?action=ItemView&item_id=9&lang=jpn

4 .広島県の平和運動

- ・ 毎年8月6日に広島市の平和記念公園にて平和記念式典を行っている。多くの市民が参加することで、国民の記憶を風化させないようにしている。その様子を全国的に中継などで放送することで、現地に行けない方にも様子が分かるようにしている。
- ・ 「青少年平和文化イベント」を行い、体験談により被爆体験を学んだり、ミニコンサート、自作アニメーションの上映など、幅広い年齢の方に親しみやすいように平和に関するメッセージを発信している。
- ・ 定期的（高頻度）に講演会やワークショップを企画し、戦争・平和について学習する機会を多く提供している。
- ・ 大学では「平和科目」という授業があり、必修科目となっている。

5.大分市の現状

- ・大分市も大分空襲をはじめとした戦争の被害を受けている。
- ・1984年12月24日に核兵器の廃絶と世界の恒久平和を希求し、平和都市宣言を行った。
- ・ムッちゃん平和祭を開催し、地元の小学生が作った灯ろうを会場全体に配置し、点灯する「ムッちゃん平和の灯」の他、平和音楽祭、花火打上を行っている。



大分空襲後の様子 出典:<https://wararchive.yahoo.co.jp/airraid/oita/>



平和都市宣言記念碑(市役所玄関前) 出典:<https://www.city.oita.oita.jp/o078/shisejoho/hewajigyo/1014194875755.html>

6. 広島県から学ぶ新しい平和学習の方法

- ・ 大分市が行った平和都市宣言をベースに、広島市で行われているような平和記念式典のようなものを開催し、市民参加型でのイベントを実施。
- ・ その際に、大分市内の空襲等の資料が残っていれば合わせて展示を行い、市民の理解を深める。



6. 広島県から学ぶ新しい平和学習の方法

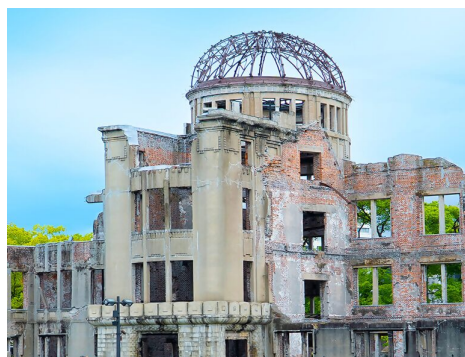
- ・戦争の体験談を聞く場やワークショップ等の頻度を増やし、戦争・平和について市民が触れる機会を積極的に作る。

- ・終戦の日や広島・長崎に原爆が投下された日は市民全員が平和について考える日になっていると思うが、あくまでイベントの一つのようになっているため、それ以外の日に改めて戦争・平和について考える機会はかなり少ない。

- ・普段から定期的に講演会や学習会を行うことで「過去に何かがあった日」でなくても市民が戦争・平和について考えることができるのではないか。

6. 広島県から学ぶ新しい平和学習の方法

- ・ 広島県では、原爆ドームをはじめとした被爆建造物をめぐるツアーを定期的に行っている。ガイドの方の説明によって当時の状況を詳しく知れるほか、VR技術を用いて当時の様子を疑似体験できるようなものもある。
- ・ 大分市でも、空襲の跡地や名残のある地を巡るツアーを開催してみる。
- ・ 大分市に住んでいても「戦争」と聞くと広島や長崎をイメージしてしまうかもしれないが、もっと身近に、大分市でも戦争の被害があったのだということを感じてもらい、今ある平和の大切さを改めて実感することに繋げていく。



原爆ドーム 出典: <https://tabiiro.jp/kankou/landmark/world-heritage-dome/>

まとめ

・今回、これまで青年部が調査してきた反戦・平和について、昨年度の研究内容を引き継ぐ形で、自分の経歴を活かし、広島に焦点を当てることで、より深い研究、調査を行った。

・大分市が平和のために行っていることを続けつつ、新しい平和学習を取り入れることも必要なのではないか。

沖縄の平和行進への参加報告

- ・ 5月15日～17日に沖縄にて行われた「5.15沖縄平和行進」に青年部の代表2人が参加。
- ・ 「反戦平和・基地のない沖縄」を求めて行われているもので、沖縄で行われていた実弾砲撃演習の分散・移転先である日出生台演習場を抱えている地元県本部として、沖縄の平和活動に連帯し、情報の発信元である沖縄のたたかいに学ぶために参加。
- ・ 行進は5月16日（土）に行われ、嘉手納基地コースと普天間基地コースの二つがあった。
- ・ 青年部としては嘉手納基地コースに参加。



行進の様子

嘉手納基地コースの紹介①

よみたんそん
出発地：読谷村陸上競技場

- ・ 出発地・読谷村役場一体は、米軍読谷村補助飛行場があった場所。
- ・ もとは、1943年から、日本軍が沖縄北飛行場として土地を強制接收、建設、運用していたが、1945年、上陸した米軍はただちに飛行場を占領し、日本全土への爆撃の拠点とするため、拡張、運用を開始した。
- ・ その後、村民の粘り強い返還運動で2006年に全面返還され、現在は読谷村役場をはじめ学校やスポーツ施設などの公共施設や農地など跡地利用が促進されている。



読谷村役場

嘉手納基地コースの紹介②

米陸軍トリステーション

- ・米軍の西太平洋地域における戦略通信網の最重要施設と言われており、米陸軍・軍事情報部隊等が使用している。
- ・また、本来在留できないはずの米陸軍・特殊部隊グリーンベレー390人が通信所警備の名目で駐留しており、その他、海軍の特殊部隊ネイビーシールズもホワイトビーチに駐留している。



トリステーション出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AA%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>

嘉手納基地コースの紹介③

嘉手納基地（飛行場）

- ・ 嘉手納基地は、約4000m滑走路2本を有している。
- ・ 嘉手納基地は、米軍軍事戦略、インド太平洋の軍事拠点ばかりでなく、トレーニングセンター的な役割も担っており、米本国やハワイ、カナダ、オーストラリア、韓国などからも基地へ飛来し、実弾を装填しての訓練が繰り返されるなど、騒音被害は激化の一途をたどる。



嘉手納基地の様子

嘉手納基地コースの紹介④

嘉手納弾薬庫

- ・隣接する嘉手納町、読谷村、恩納村、うるま市、沖縄市にまたがる広大な弾薬庫がある。
- ・復帰前、沖縄には「ナイキ」などの攻撃型核ミサイル兵器が配備されていた。復帰直前、核弾頭は嘉手納弾薬庫に保管された。その後、核弾頭をすべてアメリカに持ち帰ったのかは明らかにされておらず、核貯蔵について、疑惑のまま50年がたっている。



嘉手納弾薬庫入口 出典: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%98%89%E6%89%8B%E7%B4%8D%E5%BC%BE%E8%96%AC%E5%BA%AB%E5%9C%B0%E5%8C%BA>

まとめ

- ・ 沖縄で行われた平和行進に参加することで、沖縄の現状を知り、居住地の近くに基地があることの恐怖を感じた。「基地のない沖縄」を実現するために、連帯して取り組まなければならないと再認識した。
- ・ 沖縄が米軍による支配から日本に復帰して54年、平和行進は49回目を迎えており、毎年こうした大きなイベントをすることで国民の記憶を風化させないようにしていることを知った。
- ・ 沖縄のように、未だに米軍基地が居座っている実情を許すことなく、更なる平和を訴え続ける姿勢を持つことは、私たち自治体職員として必要なことだと感じた。